

① 吉野桜散歩道

平成7年(1995)頃に地元老人クラブ「吉野高齢者友の会」が主導し、150本の桜の苗木を植えて整備した散歩道。国による圃場整備事業後、畦畔木のある昔ながらの田園景観保全のため何かできないかと、思案した末の取り組みでした。全長約1.2km、徒歩2400歩、時間にして約15分。



満開時に歩いてみたい

② 吉野町

「吉野町」は、中世安曇郡の三大都市「大町」「穂高」「真々部」のうち、武田氏滅亡により廃退を余儀なくされた真々部に代わり、安曇郡南部支配の拠点として、松本城主小笠原貞慶が日岐丸山丹波守に命じて開発させた都市的集落です。南北に展開する町並の長さは312mで、南北双方の入口が防御のため鍵ノ手になっています。



戦国末期の風情を色濃く残す歴史的町並み

③ 吉野町館跡

吉野町の東には日岐丹波守が築いた城館がありました。平成2年(1990)には、圃場整備に先立って吉野町館発掘調査が行われ、この際、平安時代の竪穴式住居の址が8軒も見つかりました。その付近一帯は、現在、一見ただの田んぼのようですが、土塁や地割りに当時の面影が残っています。

【吉野町館跡：市史跡】



往時の地割を残す「あなどれない田んぼ」

④ 新田堰

水が届きにくい新田と成相、そして吉野のために17世紀の間に数十年をかけて開削されたとされる横堰です。当初は梓川からの取水を試みましたが、最終的に奈良井川から引水しました。昭和13年(1938)、勘左衛門堰からの分水契約が成立し、250年間に渡る取水問題がようやく解決しました。総灌漑面積は210ha。



新田堰と開削三百年記念碑



⑤ 岡村勘兵衛の生家

拾ヶ堰開削の際、工事人夫の割り当てとその賃金の調達、支払いの役目を受け持った功労者岡村勘兵衛の生家。資金繰りが厳しいときなどは命がけで人夫の説得にあたりました。

現在はその子孫が、土蔵を改装して「アートカフェ清雅」を運営しています。



古民家活用の好事例の「アートカフェ清雅」

⑥ 中村の堀屋敷

屋敷主は生坂日岐出身の丸山丹後守正勝。永正3年(1506)この地に入り平瀬氏の寄子として仕えていた正勝はその後信長に出仕。京都方面を流浪した後、天正5年(1577)に当地に環住。その後正勝は丹後守となり当屋敷を造成したと見られています。保存状態が非常によいおかげで、往時の武人の息づかいが聞こえてきそうな雰囲気漂っています。

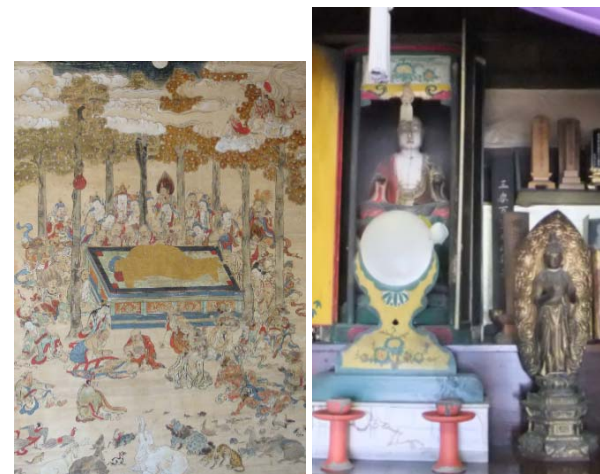
【中村の堀屋敷：市史跡】



四周を巡る堀

⑦ 吉野地藏堂

戦後も長く尼僧が堂守をしていたというこのお堂の中には、本尊として「延命地藏菩薩」(座像/高さおよそ44cm)が祀られています。「吉野地藏堂世話人会」という、このお堂にゆかりのある70余戸の吉野住民らが、毎年11月末頃になると「お十夜」と呼ばれる祭典をとり行なうなどして、守っています。

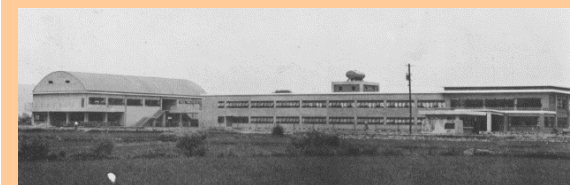


お堂内部は非公開

工場誘致政策と安曇野

昭和27年(1952)、県下町村に先駆けて「工場誘致条例」を制定した旧豊科町では、同40年(1965)頃に工場建設のラッシュ期を迎えます。

この工場誘致政策が成功した要因の一つに、昭和39年(1964)に現在の安曇野地域を含む松本諏訪地区が国により「新産業都市」に指定されたことが背景にあります。都市と地方の格差是正を図る国策で、全国で15の地域が指定されました。その地域のひとつに当時の豊科町も入っていました。



昭和37年(1962)操業開始のニチコン(株)